

藤 沢

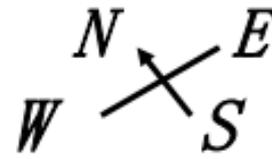
エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議

(略称) 藤沢エコネット

2023年7月1日

第350号

主
な
記
事

- ・リサイクルプラザ北部焼却炉見学
- ・「沖縄、再び戦場へ」上映とトーク
- ・カブチーノの海？
- ・線状降雨帯・内水氾濫 早めの避難を！

<http://econet2015.sakura.ne.jp>
事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳

☎ / FAX 0466-87-4922

日中友好のあり方、「魯迅・漱石」の留学時代の講演を聴いて

さる6月8日、日中友好協会湘南支部主催の講演会「魯迅と漱石、西片町の家」というテーマで、元日本経済新聞論説委員、柴崎信三氏の講演が開催された。

最近の日中関係は、米国の台湾有事、米中緊張政策に呼応して、我が国も防衛力増強、ミサイル基地強化、敵基地攻撃など反中国的政策が進められる中で、日中友好はいかにあるべきか、今回の講演を聴いて考えさせられた。

講演は 明治時代、魯迅が日本へ、夏目漱石が英国に留学した頃の話である。

魯迅は、明治35年から明治42年まで7年間留学生として日本にやってきた。魯迅が日本にやってきた頃は、日清戦争の後であったが、日本に学べという機運が中国におこり1万人ちかい留学生が日本にやってきたとのことであった。

日本でも中国の若者の日本留学熱にこたえるべく、柔道家である嘉納治五郎が清国留学生のために東京牛込に弘文学院という学校を作り留学生を迎え入れたほどであった。こうした交流こそ遠い昔、遣唐使として中国に渡った時代に続く日中交流の原点では無いかと思われるものであった。魯迅もこうした留学生の一人として7年間日本に学んだのである。しかし、魯迅が仙台の医学校に学んでいた頃、日清戦争でとらえられた中国人の捕虜が惨殺刑にされるのを廻りの中国人が笑って見ている写真を見て、中国人の民族意識を覚醒させるには医学ではなく文学の力で人々の心を覚醒させねばならないと悟り、魯迅は、留学を打ち切り中国に帰って行ったのである。

漱石は、魯迅と同じ時代(1900年)に留学生としてイギリスに渡ったが、西洋人が、日本人と中国人を比較して、中国人をいやがる言動をするが、これを聞いた日本人が、これまで日本がどれだけ中国の厄介になったかを忘れて、隣の国の悪口を面白がってきているようでは、日本人としてなんとも軽薄な根性ではないか、と日記の中で嘆いていた。

漱石のこの苦言は、今日の日中友好にも活かされるべきではあり、相手の悪口を言い合うのでは無く、隣国同士、お互いにリスペクトし合うことが肝要ではないかと痛感した次第である。 (小林麻須男)



ハナショウブ (横須賀しょうぶ園)

リサイクル施設・北部新設2号炉に見学

5月22日に、リサイクルプラザ藤沢と北部環境事業所2号炉に見学に行った。

最初に施設全体の説明動画を見た。ゴミを焼いて発電し、灰をさらに焼いて熔融し半分にしてさらにそれを道路などに利用するなど。



見学コース、説明を受けながら

次に見学。リサイクルプラザ藤沢の部分から。ガラスで仕切られた向こう側の広い作業場で、大きなベルトコンベア上に流れていく空びんを、作業員が色別に分けたり異物などを分別作業。障がい者等に仕事を提供することも大事というがこれを一日中やるのはつらそうだ。何でも、5人で、50分間交代、5ラウンドでやるとの説明。中はかなりの音と悪臭との事。空カンの作業場も似たような感じ。

次にペットボトルとプラごみの処理場だが、プラごみは、中身を出して、汚れているものなどを分別されていた。汚れているものは、可燃ゴミとなるが、22トンに対して1トンを燃やすとの説明。

そして2号炉へ。落ちたら大変だ、と思えるほど深く巨大な穴（ピット）に接する扉がいくつかあり、その扉のうちの開いた扉には可燃ゴミなどを搬入するトラックがバックして接近し、ゴミを落としていた。

その穴には巨大なクレーンがあり、ゴミの燃焼温度を一定にするためにゴミをかき混ぜてから、となりの炉へと運んでいる。

なお、ピットの中は藤沢市のピンクのゴミ袋でピンク色かと想像していたが、まったくピンク色は無かった。その日は見学が午後だったため家庭ごみは午前中に処理し午後は業務用のゴミが主だったらしい。4月から運営開始の焼却炉、見学コースは新しくき

れいだ。公設民営DBO方式による事業者の『荏原環境プラント(株)』の職員により説明を受けた。ストーカ式炉で850℃以上で燃焼し有害ガス類は取除き、大気中には出ない。一日に150トンを焼却できる。余熱は発電して場内での利用と公共施設売電もしている。24時間燃やし続け年に2回だけ炉を止めるとの事。すべてが中央制御室でモニターを見たり操作・管理している。1号炉は別会社の運営で見学は出来ない状態だった。

(内藤繁)



空きびんの分別作業

見学者より感想

自分たちが毎日出しているゴミの行方はと興味津々で見学に出かけた。2時間と長い時間をかけて見学コースを案内された。40分は施設の動画を見てから靴を脱ぎスリッパに履き替え階段を上がったりと疲れた。

- ・プラスチックは焼いている、ダイオキシンは出ないと言っているけど、CO2はどうなの？ 出ていないか心配だ。

- ・ビンなど分別するのに身体の不自由な人や外国の人たちがラベルをはがし、中が汚れていないか見たり、立ちっぱなしで目も手も動かして働いていた。いくらコンピューターで機械を動かしていても最終的には人の手で分別する大変な仕事。

- ・ガラス張りで匂いや騒音がない見学コースで見た制御室はまるで原発の制御室を見たようだった。

- ・焼却炉は小さな火が見えただけで良く見えない、中で燃えているゴミを見たかった。

- ・私たちも、たかがゴミ、されどゴミです、指定された通りのゴミ出し…。

- ・リサイクルの大変さを知ったからには、より気を付けて丁寧なゴミ出しを実行しよう。

みんなでゼロカーボンめざして！

「沖縄、再び戦場へ」上映と対談トーク

シールズの若者たちと戦争反対！と国会を包囲したのは8年前。そして今「生活を破壊する軍拡と増税に反対します」と街角に立つ私たち。「戦争前夜のようなですね」と署名に応じてくださる方に励まされもしますが、軍事大国まっしぐらにすすむ現政権にストップをかけるには「あきらめない」「傍観者ではいけない」と自分に言い聞かせる日々です。

ふじさわ・九条の会発足18周年のつどい(5/27)で「沖縄、再び戦場へ」上映と「南風に乗る」の著者、柳広司さんと「ふじさわ九条の会」代表の吉塚さんの対談方式のトークにぐいぐいと引きこまれました。

侵略国家の日本、広島・長崎への原爆投下、敗戦と平和、憲法。踏み台とされてきた沖縄。

柳さんは沖縄の歴史を紐解く鍵を不屈の男とされる瀬長亀次郎に焦点をあてたと話されました。そして「不屈さは亀次郎個人でなく沖縄の民衆が不屈だから」と対談の中身にせまる聞き手、吉塚さんの問いに、「小説家としての使命は？」とさらに問いかけられた時は、参加した私たち自身もどっきり。

さて私も50年前の時間に連れ戻されました。1970年、上京したばかりの私は、沖縄返還を戦う支援に参加。10日間のお休みをとり、沖縄に飛んだ21歳。よくもあんな大胆な行動ができたかと思えます。沖縄はドルの通貨。日本円を下着に入れての運び屋も頼まれました。いちばん印象に残っているのは、ピラをわたすと「瀬長さんからですね」と手をあわせて感謝されたことです。

「ていんさぐぬ花(ホウセンカのこと、沖縄民謡)」を繰り返し教えてくれたおじいさんも忘れられない。

今回の対談、柳さんの本を読み不屈に戦うエネルギーはなんだろうか考えると「命どう宝」と合わせて柳さんから「南風(まぜ)に乗る」という希望と「不屈に闘う力」をあらためて教えていただいた。

(吉鶴美智子)



線状降水帯・内水氾濫 早めの避難を!!

梅雨期の集中豪雨はゲリラ豪雨等と呼ばれることもあり、梅雨の様相も変わりつつあります。最近では「線状降水帯」と呼ばれ、メカニズムが分かってきました。

線状降水帯とは次々と発生する積乱雲が列をなし、同じ場所を通過・停滞することで、線状に伸びた地域に大雨を降らせます。



過去に発生した集中豪雨は台風以外、約3分の2は線状降水帯によります。線状降水帯は台風や前線と比べると、スケールは小さく予測が難しい。線状降水帯の予測をさらに高精度に行うための研究も進められ、高解像度「雨雲レーダー」が開発された。

近年、線状降水帯と言えは九州や西日本で頻発している印象を受けますが、大気の状態が線状降水帯の条件を満たせば豪雨災害はほぼ全国各地で発生する恐れがあります。

河川の管理基準は、1時間の降水量50mmまでを想定して設計されており、これを超える雨量がある場合は、早めの避難が重要です。従って線状降水帯で猛烈な降雨が発生時の問題として、危なそうに感じてからの避難ではとても間に合わない場合が出てきます。

「いざ」という時に向けて、ハザードマップで確認を。藤沢市でもハザードマップを作成・発行し、印刷されたものが各戸に配布されていて、インターネット上でも公開されています。

避難のタイミングは？

大雨による「警戒レベル3：高齢者等避難」や「警戒レベル4：避難指示」を見聞きしたら、避難行動をとるべきです。避難するタイミングは「警戒レベル5：緊急安全確保」が出てからでは遅いのです。特に、夜間の避難は危険です。明るい内に早めの避難を！ 温暖化の影響で雨の降り方が変わってきています、これまでの経験は通用しません。

次号に続く。

(気候危機アクション藤沢 宮地俊作)

カプチーノの海！？

エコストアパパラギで出会った仲間達が乗った太平洋航海21日間の航海を終え、無事帰ってきました！

目的地グアム島、経由地小笠原諸島の両方に台風が直撃するという信じられない状況になりながらも伊豆諸島巡り、熊野の山々を見ながらの航海などは、発見も多くそれなりに充実した航海になりました。

エメラルドブルーの海と伊豆諸島の雄大な島の姿を見ながら関東の海に戻ると台風の影響等でホイップクリームのような海と珈琲色の海が広がっていました！

これではカプチーノだ！と冗談を言っている場合ではありません。原因のほとんどが人間の仕業であるという事、海は痛めつけられているという現実を目撃した航海でもありました…。

◆航海の様子、航跡図等はこちらのHPからご覧ください <https://kikoukiki.org/>



(写真 ホイップクリームのような海)

これからの体験乗船会

7月22日(土)、24日(月)、26日(水)、8月4日(金)、5日(土)、6日(日)

※詳細と申し込み方法などはこちら

<https://ecostorepapalagi.com/velvet-moon-体験セーリング/>

海で会いましょう！

(武本匡弘 環境活動家)

ECONET INFORMATION

▲平和委員会・学習会

岸田大軍拡は「戦争する国家」づくり

講師 小泉親司さん(日本平和委員会理事)

7月15日(土) 13:30 市役所5階3会議室

資料代¥500 連絡先 090-1778-9100

▲震災復興支援コンサート in ふじさわ

～放射能から子どもを守ろう～

7月17日(月) 13:30-15:30

藤沢市民会館 参加費 500円

連絡先 080-3018-8191 荒井



▲第10回ふじさわ平和文化展 出展募集

開催は9/19(火)～24(日)藤沢市民ギャラリーで
絵画 写真 絵手紙 書など作品を募集しています
8/5まで) 出展料 2000円

申込み ☎0466-44-5067 平綿

▲戦争体験を聞く会～飯田玲子さん～

7月22日(土) 14:00- 資料代 300円

湘南大庭図書館第一会議室

主催：湘南大庭九条の会 0466-88-9368 品川

▲「平和憲法の碑」建立場所を探しています

併せて賛同者、寄付もお願いしています

連絡先/エコストアパパラギ 0466-50-0117

主催 湘南平和憲法の碑を建立する会

▲藤沢エコネットから

◆会員募集 年会費・購読料→2000円

【ゆうちょ銀行 加入者名 藤沢エコネット

口座番号 00240-9-46501】

◆事務局会議 7月1日(土)10:00-六会公民館



《編集後記》昨年の今頃はオリンピック開催とウクライナ戦争、コロナ禍で揺れていた。今年とはというとマイナカードに保険証の紐づけや軍事費大増強に物価高騰で揺れているが、皆さまはどう感じている？ 温暖化が進み気候不安定でこれこそ人類の存続が危ぶまれる源と心得たい。(H)